

第三十六回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

平成二十六年 広島県土木局

目次

優 秀 賞 (応募順)

八幡川の水

広島大学附属中学校

一 年

石 井

夢 乃

水についての実際体験

銀河学院中学校

一 年

旗 手

実 梨

水に対する意識を変える

銀河学院中学校

一 年

中 西

ひ な り

入 選 (応募順)

水の育て方

銀河学院中学校

二 年

後 藤

真 莉

水の使い方

銀河学院中学校

三 年

奥 田

彩 奈

水

銀河学院中学校

三 年

平 田

愛 美

限りある水資源

銀河学院中学校

一 年

青 山

小 詠

水不足国 日本

銀河学院中学校

一 年

池 田

智 美

生きる原動力 それは水

銀河学院中学校

一 年

藤 原

彩 名

地球の宝物

呉中央中学校

二 年

鈴 木

創 太 朗

優 秀 賞

八幡川の水

広島大学附属中学校 一年 石井 夢乃

私の住む地域には八幡川という川がある。

広島県の二級河川であるこの川の下流には「みずとりの浜公園」という公園があり、川のすぐそばに位置している。その名の通り、四季折々にたくさん野鳥が飛来する。カモやシギ、カモメなどを川辺に見るたびに、きれいな川を守りたいという気持ちになる。

私が小学生の時、「八幡川クリーン大作戦」と名付けられた、学校のみんなの手で川の水をきれいにしようという取り組みがあった。私は今でもその時のことを覚えている。

川の生物の観察とゴミ拾いのために、私たちは八幡川に降り立った。水面が光にキラキラと反射してとてもきれいだった。シャリシャリと音を立てて歩く砂の上に、いくつもの水の流れが見え、小さな力音が砂の穴から顔を出したり、せせらぎのなかにシャコを発見したり、巻貝が少しずつ移動する様子を目にして、無数の命がここで育まれていることを感じた。

また、あるときは川の浄化のために「CC玉レンガ」を作ったこともある。これは、鉄や炭、火山灰などを練って団子にして焼いたもので、水中でゆっくと溶けながら入ドコの沈下や水の浄化を行うものだ。自分たちが作ったお団子が水をきれいにしてくれるのだと思うととても嬉しかった。水がきれいになれば、そこにたくさん生き物が生息する。私たちはCC玉レンガを八幡川に投げ込みながら、まるで命を生み出すお手伝いをしたかのような気持ちになった。

今、毎日おだやかに流れているこの八幡川も、私が生まれるずっと以前には台風によって氾濫し、広い範囲に水没などの被害をもたらしたこ

とがあったそう。

その後この地域は人口が増えたため、洪水調節や水道用水、水力発電などを目的として、昭和五十六年に魚切ダムが建設されたらしい。川の河口から十一キロメートル上流にあるダムにみんなを訪れたとき、その大きさに驚いた。そして、ここで人間が生きていくための大切な資源が守られているのだと思った。

以前、祖母から二十年前くらい前に、雨が降らなくて水道の給水制限があったんだよ。」と聞いたことがある。調べてみると、平成六年に日本の各地では春から夏にかけての降水量が少なく、真夏は猛暑で水不足となったようだ。そのため、断水になった地域もあったらしい。

この地域でも、祖母が言うように生活用水の給水制限はあったが、魚切ダムのおかげで農地の水が枯れることはなかったようだ。きっと、川が干上がり生物たちが死に追い込まれることもなかったのではないかとと思う。

下流に住む私たちは川が流れていることを当たり前のように感じているが、上流で降水量の多いときに水をためて、川の水量が少ないときに水を流すという役割を担ってくれていることは、私たち人間の生活を安定させてくれるだけでなく、川の生態系を守ってくれている一面もあると感じた。

私たちの国は降水量が多く、雨水を蓄える働きをする森林面積も広いので、水が豊富だと言われている。でも、いつでも安心して水を使用できるのは世界でも限られた国だけで、水不足に苦しんでいる国は多く、水は限りある資源だということを忘れてはならない。

私たちが大切にしている八幡川の一滴も、とても貴重な地球の資源なのだと思う。命を育む水を守るために、私たちは自分たちができることをしなくてはならない。すべての生物は水なくしては生きていけないのだから。

水鳥を呼び、川に住む生き物たちへの命がたくさん生まれる美しいこの川の水を、いつまでも守っていきたいと思う。

水についての実際体験

銀河学院中学校 一年 旗手 実梨

私は、水について調べるにあたって、資料を調べるだけではなく、実際に自分が体験しなければならぬと思います。福山市民の水の源である芦田川一斉清掃のボランティアに参加しました。六月の第一日曜日は、『芦田川を守る日』なので、家族全員で協力して行いました。父は川からゴミを出し、母が河川敷に置き、私が袋に入れるという流れ作業で行いました。芦田川に捨てられていた「ゴミ」には、空き缶やお菓子の袋など、予想していた物はもちろんありましたが、魚を愛しているであろうつりの人の道具や、田んぼで水の大切さを分かっているであろう農家の人の肥料の袋なども出てきました。また、ラーメンカップや胃薬などもありました。ナイロンは水に溶けないから、川の敵だと思いました。実際に魚が死んで浮いているのを見ました。体験したことで、水や魚に感謝する気持ちや水を大切にしようとする行動する人とのふれあいの喜びが分かりました。私の母が子どもの時、このボランティアに参加したことがあって受け継いだので、私も代々つないでいかなければならないと思いました。

また、私は小学生のころから、いろいろな水の施設のイベントに参加したことがあります。見学した施設は、見る見る館と、高屋川河川浄化施設と中津原水源浄水場と、福山浄化センターです。川の汚れた水が水道水になるまでと、使用した水がきれいな水になって川に流れるまでを見ました。地下は暗くてなかなか入れないので、良い体験ができました。施設で聞いたお話によると、芦田川の歌があったり、葦のすだれ作りや、葦紙作りや、葦笛作りや、葦ペン作りのイベントがあるそうです。子どもたちにも水の大切さが分かるように、施設の人も工夫されているのだ

なあと思いました。

今の時代、地球温暖化の影響で五月でも熱中症予防の水分補給の大切さが言われています。おいしい水を求めるのももちろんのこと、料理にも水は欠かせません。水質が「旨さ」を決めるものには、みそ・日本酒・しょうゆがあります。名水を大切に行っている食べ物には、サイダー・ハーブティー・わさび・あんこ・アスパラガス・セリ・広島菜・白魚・うなぎ・クレソン・田いもなどがあります。いかに水が、私たちの生活に重要かが分かりました。また、くさりにくい食器には水活性が関係していて、シャム・マロングラッセ・チーズ・ドライフルーツ・ハムソーセージ・カステラ・ゼリー・サラミなどがあります。水は、人間の病気を防ぐことにも役立つことが分かりました。

芦田川は、広島県三原市大和町蔵宗を源流とし、せら台地や神辺平野を下り、福山市みの島町で瀬戸内海備後灘に注ぐ、全長約八十六km、流域積約八百六十km²の一級河川です。こんなにすばらしい川が福山市を流れているのに、ここ四十年弱の間、一級河川ワースト一位、二位と呼ばれるくらい、汚いことで有名です。それを打破するために、『クリーン5』という家庭でできる、環境にやさしい5つの取り組みが、今呼びかけられています。一、ネットをかけよう！二、汚れはふき取る！三、油は紙にしみ込ませよう！四、洗剤はすこしだけ！五、洗剤は適量を！というものです。

私は今回、水について考えることを通して、「いただきます」という言葉が、今まで以上に大切に感じるようになりました。これからの国際社会で外国の人と会った時、外国のように水を直接使うことができるだけける国ではなく、日本の水はおいしいと自信を持って言えるような国にしたいと思います。そのためには、自分に一番近い水である芦田川の水に関心を持ち、くわしく知って、できることからコツコツとしていきたいと思えます。

「芦田川の水に感謝！」

水に対する意識を変える

銀河学院中学校 一年 中西 ひなり

私達日本人は水道をひねればいつでも水や湯は出てくると思い込んでいますが、もし、災害や濁水などによって蛇口をひねっても水がでてこなくなったら、のどを潤すコップ一杯の水を自分で手に入れることができるでしょうか。

例えば自然界で水を手に入れようと思ったら、朝露を集めたり、植物の枝にビニール袋をかぶせたり、地面に穴を掘り、その土にビニールシートをかぶせるなどの方法があります。しかし、これらの方法でコップ一杯の水を集めようと思えばかなりの時間を必要とします。つまり、もとも水はとても貴重なもののはずです。幸いに日本は水道の設備が整っている人はほんのひと握りしかいません。水道料金を下げるために節水している人はいても、「資源」としてとらえている人は少ないだろうし、全ての日本人が節水を徹底することは今さら不可能だと思います。では、水を意識して使うためにはどうすればいいか？例えば、少し荒治療ですが「ノー水道デー」を作ってみるのはどうでしょうか。これは年に一回病院など特定の施設をのぞいて、水を一切でないようにするのです。たった一日でもみんな相当困るはず。人は痛い思いをしないう意識できません。

もっと簡単な方法だと、よく外に設置してある水道使用量のメーターを蛇口付近につけたら、今、何リットル使ったかが数値ですぐに分かり、意識するようになると思います。

あるいは、太陽光発電のように、雨水を貯めて家庭で飲料水に変えることができ、余った水は売ることできるシステムが一般化されたら、飲料水は「作るもの」ということが身近に感じられます。海水や川の水

や山水などはそのままでは飲めません。飲料水は自然と湧いたり降ったりしてくるものではなく、そのままでは飲めない水を手間をかけて作ったものです。

このように、何げなく蛇口をひねるのではなく、日頃から水を意識する工夫が必要だと思います。

他の国では日本のように水がきれいでなかったり、簡単に手に入らないところもあります。もし、日本人が洗濯を一回減らしたり、入浴を一日に一回にするなどして、浮いた水を、そのような国に分けてあげることでできたら、多くの人が助かると思います。

ある国では、飲むためのコップ一杯の水を集めることさえ大変なのに、日本では、水道水は風呂や洗濯に使い、飲むためにはわざわざミネラルウォーターを買っている人も多くいます。水道水は十分安全な飲料水なのに、さらに味やおいよ成分の好みまで求めるようになったからです。つまり、飲料用としては水道水に対する評価が低いということ。このような粗末な扱いをしていて、いつしかしっぺ返しをくらうようなことにならなければ良いが、と危惧しています。

水の育て方

銀河学院中学校 二年 後藤 真莉

水は神様のようなものだと思う。すべての生き物に関わるもので、運命を決めるものである。人間にとって神様はとても大事で、そのことで戦争し、涙を流し、死んでしまう程だ。水もそれと似ている。しかし似ているだけであって神様ではない。神様程遠い存在ではない。私達の身近なものだ。それゆえに、水に頼り過ぎている。水があることをあたり前に感じている。では、頼ることは悪いことなのだろうか。いや、そんなことはない。問題なのはそこではない。問題なのは、水があることをあたり前に感じるからだ。

私は数日前、映画を見た。そこでは自然についての話をしていた。その中でも、一つのこと私の心につきまわった。一つは、砂漠のことだ。砂漠には本当に砂以外何も無い。水がないからだ。水がないとここまで殺風景になるものなのかと少し恐怖さえ感じた。もう一つは、水を求める動物達のことだ。ライオンもゾウも敵どうしであるにも関わらず、同じ水たまりの水を飲んでた。

このように水がないことがあたり前なのだ。自動販売機で買えることが普通ではないのだ。毎日おフロに入れることが普通ではないのだ。「でも日本には水があるのだから、あることがあたり前なのではないか。」と言う人もいるだろう。確かに日本だけで見ればそうだ。では、「水あることがあたり前」の上を目指してみよう。例えば「水がきれいであることがあたり前」とか。

家族と散歩しているときのことだ。川のそばを歩いていると父がこんなことを言った。

「アメンボはきれいな川にしかない。というよりきたない川、つま

り油の浮いた川には住めない。なぜなら、水だから浮いていたアメンボは水より軽い油の上にいるとおぼれてしまうからなんだよ。」

私はこの話を聞いて「アメンボはそのうち絶滅してしまうんだな」と思った。なぜだろう。なぜ一番最初に「絶滅する」と思ったのだろうか。まだ未来なんてどうにだって変えられるんだ。そんな弱気でいたらダメだ。油を流さなければいい。洗剤を使い過ぎなければいい。ただそれだけでいい。

「水は神様のようなものだ」と私は言った。

「運命を決めるもの」とも言った。でも水の運命を決めるには私達だ。きれいにすることもきたなくすることもできる。つまり水は私達の子どものものだ。育て方で変わる神様なのに子どもとはとてもややこしい。しかしそんな子どもを私達はどのように育てていけばいいのだろうか。

水の使い方

銀河学院中学校 三年 奥田 彩奈

日本は、世界の中でも水の豊かな国です。ですが、じゃ口をひねればいつでも水が出る日本とは違い、凄く汚い水を使っている所もあります。

例えば、インドネシア・ジャワ島の西ジャワ州にあるチタルム川は世界でもっとも汚れた川の一つとして知られています。この川には、家庭から出る家庭ゴミに加え、周辺の繊維工場から浄化されない酸性の汚水や、汚染排水に伴い死んだ動物や魚の死体が浮き上がり、更に汚染が広まっています。その汚染により川の漁獲量は6割も汚染前よりも減っています。しかし、現在でもチタルム川流域の住民はこの川の水を飲み水として利用したり、生活用水として使用しているそうです。

次に、ウガンダの農民地帯では、水道や井戸などの安全な水を利用できる住民は56%で、全住民の半数近くの人々が汚い湧水を飲料水として利用しています。また、衛生的なトイレを利用できる人の比率は41%とさらに少なく、多くの人々が藪などで用を足しています。そのため、大勢の人が行き来する市場の周辺などでは、ふん尿による地下水の汚染が深刻化しています。

汚染された水を飲み、さらに水浴などに使用することは、赤痢、腸チフス、寄生虫症、皮膚病や眼病の原因となります。医療施設の不足と貧しさのために、医者の治療を受けることが困難な農村地帯の家庭も多く、子どもにとって、これらの感染症にかかることは命取りになることもあります。また、もともと栄養不良状態なうえに、せっかく取った栄養が、下痢や寄生虫のために十分に吸収されず、ますます栄養状態が悪化するという問題も起きます。そして、ウガンダのような国がある所に、支援グループがいて、ウガンダにきれいな水を届けよう！というプロジェクト

トがあります。アフリカに寄付や募金をして、キレイな水が出る井戸を作りました。このような活動もあり、助かった命がたくさんあります。この2つの地域について私は、世界には、水不足のせいで病気になる人が、亡くなってしまう人がいるんだなと思うと同時に、今、自分の環境は、とても裕福なのだと感じました。そして、今までは、手が汚れると水を多量に使い、タオルを出し、洗たく機に入れていたものが、これからは、最後に水を使い、その時に多量に使わず、少量でゆっくりに手を洗い、洗たく物を減らすことを心がけようと思います。そして、なるべく節水をして、少しでも水の少ない地域の人の役に立てれば嬉しいです。

最後に、私は、水はあたりまえにあるものではなく、水を使うためには、裏でたくさんの人が苦労していることを忘れないでください。それが、世界中のどんなに小さな地域でも、その人たちの力になれるような水の使い方を私はしていきたいです。

水

銀河学院中学校 三年 平田 愛美

私はこの水の作文を書いてみて私は水について考えるようになりました。

生物が生きていくには水が必要です。水がなくては人も動物も植物もみんな死んでしまいます。

でも今まで私は水がなくては生きていけないと分かっているも水について深く考えずに水を使っていました。

しかし、よくよく考えると水は私たちの命だけではなく私たちの生活にも深く関わっていて切っても切れない仲間となっているのです。

例をあげてみるとお風呂や水道水、食器を洗うときにも水を使います。そして水力発電にも水を使います。

水力発電は大量の水を使ってその水の力を使って電気を発生させます。

だから私たちはこんなにも水をたくさん使用しているのです。

そして私はこの作文を書いている内に思いました。

水は大事な物、大切な資源、私はそう分かっているもつい無駄にしてしまいます。いえそんなに考えなくても大丈夫と思っていたのかも知れません。

地球には水がたくさんあるから大丈夫と思いついていた部分があったことも事実です。

しかし、そんな過信はあやまちだったのです。確かに日本には水がたくさんあります。

でも世界には水が飲みたくても飲めない国がたくさんあります。たとえ水があってもその水が汚れた水だった場合は、お腹をこわしてしま

ます。

でも実際、世界中に飲める水となると一体全体何パーセントになるだろうと私は疑問に思いました。

そこで私は世界中の水の中で飲める水の割合は何パーセントになるか調べてみました。

そして調べた結果、世界中に飲める水の割合は何とたったの零・四パーセントだったのです。

つまり今、私達が飲んでいる水はかけがえのない貴重な水なのです。

しかし、私達は今、そのかけがえのない大切に貴重な水をどんどん汚してしまっているのです。

私自身も、自分の水の使い方についてあらためようと思います。

例えば、歯をみがいている時は、水道の水を止めるとか、シャワーで体を洗う量の水を少なくするとか、いろいろな方法で水を大切に扱うことができるのです。

私はこの水の作文を書いて思ったことがあります。

それは、人類が地球で飲める水の量はたったの零・四パーセントなのに私はいかに水を無駄にしてしまっていたかということなのです。

私は今まで必要もないのに、水をたくさん使って無駄にしてしま

でも、飲める水がたったの零・四パーセントと分かった時、私は今までの水の使い方であらためようと思いました。

ちょっとしたことで、それが水を守ることにつながるのです。皆さんも、自分の水の使い方を振り返ってみませんか。そして無駄があれば直してみましよう。

限りある水資源

銀河学院中学校 一年 青山 小詠

水はいくらでもある、それが当たり前。私は以前までそう思ってきた。しかし先日、工事によって水道が止まった時、水は当たり前にあるものではないのだと、水の大切さを改めて考えました。水道が止まると、トイレや風呂はもちろん、食事や洗たくなど様々な場面で使えなくなりました。水の大切さを、身を持って実感しました。

それから、世界の水について調べていくといろいろな事実が分かりました。安全な飲み水を得ることができない人々が世界で十一億人もいること。生活用水を加えれば二十六億人いること。そのせいで一日三千九百人もの子供たちが死亡すること。汚染水だけでも世界にはこんなにもきれいな水を飲めない人がいました。さらにバングラデシユは水資源の四分の一が汚染され、三千五百万人の人々が汚染水を飲んでいました。私はその事実におどろき、さらに世界での問題を調べました。世界での水不足、汚染水により、地下水の過剰な汲み上げが原因で農耕地の不毛化が進んだり、水資源不足による紛争などが起きたりしていることが分かりました。

こんなにも世界で水不足が問題を発生させているのに、なぜ日本人は水資源に対し、危機的に感じていないのでしょうか。私の考えでは、日本の水はとてもきれいで、川が多くあります。そのせいで日本人はこの水はいつまでも出続けると思っているのだと思います。実は、川を汚す原因の六十パーセントは生活廃水です。洗剤などにふくまれるリンと化学物質や、食用の廃油。家庭から出る廃水はとても多く、廃水は工場から多く出ると思われがちですが、生活から出る廃水のほうが多いのです。つまり、汚染水の原因はとても身近にあるものであり、少し気

を付けることで防ぐことが可能なのです。

また、地域団体でも汚染水を守る活動が行われています。ブナの苗木の植樹です。木の生い茂った森に降った雨は、大雨の場合を除き、木の葉や落ち葉等の中にかくわえられてゆっくりと流れます。それによって土砂も防ぎ、流れる水のにごりを防ぐのです。他にもクリーンウォークなどが行われています。世界でも、二千年に三十六ヶ国の首脳が参加した「アジア太平洋サミット」が開かれました。そこで、二千年までに安全な水が確保できない人口を半減、二千年二十五年までにゼロにしようということが話されました。

私はこのような、世界での水不足・汚染水について調べて、水はとても貴重であるということが分かりました。たったさっき、むだにしまった水で、救われる人が何人もいます。今はまだ日本にはたくさん水があるように思えますが、このまま水を使い続けると、近い将来、水がいつなくなってもおかしくない状態にならないとも限りません。水で救われる人々のことを考えて、これからは

- ・ 洗剤を多く使わない。
- ・ 油は固めて捨てる。
- ・ 水を出しっぱなしにしない。
- ・ など、身近にできることをコツコツしていきたいです。

限りある水を、大切に使い続けて、何年たっても、水に満たされた青い地球であってほしいです。

水不足国 日本

銀河学院中学校 一年 池田 智美

「日本は水が豊かな国である」

と、私はずっと思っていた。蛇口からはいつでも水が出て、困ることは滅多にない。現に人間には一人五十リットルの水が必要だが、日本では一日二百五十〜三百五十リットルの水を消費している。一見一人が水をこんなにも使うことができている、水に不使していないように見える。しかし、不使していないとしても本当に水が日本は豊かなのだろうか。そのことを導いてくれたのは「仮想水」「渇水」というキーワードである。

「仮想水」とは、輸入するものに使われる水のこと、農作物でいうと、育てるために与える水などのことをいう。例えば、一キログラムのトウモロコシには、千八百リットルの仮想水が含まれている。また、そんなトウモロコシを食べる牛の肉は、トウモロコシ分の仮想水も含まれるため、トウモロコシの約二万倍と言われている。つまり、日本は、輸入する物と交じって、仮想水という水を輸入しているのだ。さらに、日本に農作物を輸出している国などでは、一人が一日に消費する水は、日本の消費量に比べ、一割も満たないという。それ以外の水は日本に輸出する作物を育てるのに使っている。毎日使う量をけずってまで、農作業を行うため、水不足が問題となっている国が多いのだ。

第二のキーワードは「渇水」である。日本の国は、世界的に見ると降水量が多く、水も豊かである。しかし、一九七〇年頃から、気温の上昇により、少雨の都市が多くなってきている。異常少雨と異常多雨の変動が大きくなり、渇水被害も増えてきている。最近三十年間では、四国や埼玉で八ヶ年以上も渇水が起きている。そんな渇水によって、どのよう

な影響があるのだろうか。それは、三つに分けられる。一つは、生活への被害だ。トイレが使えなかったり、食事の用意ができなかったりなど、給水制限による被害がある。二つ目は、工場への被害だ。工場の水不足が作業の停止のきっかけになる。三つ目は、農業への被害だ。水が足りないことにより、農作物の成長不良や枯死を起こしている。この農業への被害は、先に述べた「仮想水について」につながっていると考えられる。しかし、これらは、自然によって起こることであり、人間には、どうすることもできない。

国内での水不足を解消するために、様々な努力をしている。ダムの数を増やしたり、食糧自給率を上げるため、農業をする人を増やしたりと、努力の内容はさまざまだ。しかし、どれも中学生の私たちにできることではない。では、なにかできることはあるのだろうか。日本という国は、水があたりまえにあるかのように使われている。そうすると、渇水が起きたときに、生活に大きな被害を与えることになる。だから、ふだんから、水は必要な分だけ使うようにする。ということは自分たちにもできるだろう。水を出したままにしないことなどから始めることで、水災害が起きてても、生活への被害が少しでも軽くなることを考えられる。そして、仮想水についてのとくに述べたが、他国が日本に輸出することで生活用水が失われていることを日本国民は実感し、感謝することも大切なことだと思つ。

生きる原動力 それは水

銀河学院中学校 一年 藤原 彩名

「水の惑星」と呼ばれる地球には、およそ十四億立方キロメートルの水があるとされています。しかしながら、私達人間が利用しやすい状態で存在する水に限ると、その量はおよそ〇.〇〇一億立方キロメートルしかないそうです。今や六十億人を突破した世界中の人々がこのわずかな水を分け合って生きていると思うと、改めて水の貴重さを感じるこゝとが出来ます。また、「もっと水を大切に使わなければ」と、水に対しての意識が高まると思います。

人が暮らしていくために必要な水の量は、最低でも一日一〇〇リットルだと言われています。しかし、そんな中私達日本人は一人二〇〇リットルの水を使っていることが、ある資料を見て分かりました。たしかに私自身、日常生活の中で水の大切さについて考えることは、ほとんどありません。おそらくそれは、私の頭に「水は使えて当たり前」という意識があるからだと思います。そして、当たり前だからこそ水の存在が、自然と生活の一部となっているからだと思います。しかし、世界まで視野を広げてみると必ずしも「水は使えて当たり前」ではないということが分かりました。

アフリカや中南米では、ちゃんとした下水処理さえ受けることが出来ない人達がたくさんいます。また、水質の悪い水を飲んで体調をくずした人、あるいは、そのせいで亡くなった人が世界にはたくさんいます。私は、この深刻な状況を知りもせず、「水は使えて当たり前」と勝手に思いこみ、今までたくさん無た使いしてきた自分に怒りと恥ずかしさを感じました。また、私が無た使いした分の水で、生きたくても生きられなかった人達を救うことが出来たのではないかと思うと胸がしめつけ

られる程悲しく、申し訳ない気持ちになりました。おそらく、水で困っていない地域では、私のように「水は使えて当たり前」と思いこんでいる人達が多数いると思います。しかし、私達はそのような人達に今置かれてる現状と水の必要性について伝え、一人でも多くの尊い命を救うための活動していかなければなりません。そのためにはまず、一人一人の意識と心がけが大切になります。

そこで私は誰でも出来る節水を心がける事から始めていく事がやはり重要ではないかと思いました。この節水には例えば、「シャワーはこまめに閉める」や「お風呂の残り湯を植木の水やり、洗車などに使用する」や「洗顔には洗面器を使用する」などがあり、どれも比かく的に簡単なものばかりなため、意識さえすれば誰にでも出来ると思います。なので、世界中で節水を広げ、貴重な水を少しでも無た使いたないように使っていければいいなと思います。そうする事によって節水した分、たくさん命が救われると思います。また、「水は使えて当たり前」から「節水する事は当たり前」という考えに至り、常に水を大切に使う事が出来るようになると思います。まさに、一石二鳥です。

このように水は、人が生きていく上で原動力となるかけがえのない存在です。しかし、これから先八十億人をこえると言われる人々が、ごくわずかな水を分け合いながら生きていくとなると、水は今以上に貴重な存在になってきます。ですから私達がこの貴重でかけがえのない水をこれからも使っていくためには、積極的に節水などの活動を行い、水を守り続けていく事が必要不可欠になってくると思います。

地球の宝物

呉中央中学校 二年 鈴木 創太郎

僕が暮らしている広島県呉市は「戦艦大和」を作った町として知られる造船の町である。家からも歩いて行くことのできる距離にきれいな海がある。また、近くには澄んだ川もある。このように僕は水に恵まれている。そのため水がなくて困ったりしたことはない。だが、世界では水が不足し命までも落としてしまっている人がたくさんいるそうだ。

僕は、最近「バーチャルウォーター」という言葉を学校の家庭科の教材で知った。だが見たときは、仮想の水と言われてもなにがなんだかよく分からなかった。だが、この言葉気になったため家でバーチャルウォーターについて詳しく調べてみることにした。まず一番にヒットした環境省のサイトを開いてみた。すると、「バーチャルウォーターとは、食料を輸入している国において、もしその輸入食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したものと書かれていた。だからバーチャルという名前なのか、食糧自給率の低い日本はとても多いのだろうな。そう思いながら読み進めていると、目を疑うことが書いてあった。そこには、「例えば、一キログラムのトウモロコシを生産するには、灌漑用水として千八百リットルの水が必要です。」と書かれていたのだ。自分が予想していたよりも桁違いに多かった。あっけにとられていると、上の方に「仮想水計算機」という物があるのに気が付いた。それは、食品の量を入力するとバーチャルウォーターの量が出てくるといったものだった。例えば、パン一枚を作るのに九十六リットル、いつも部活に持っていく麦茶一杯が九・八リットル、さらにインスタントラーメンが約百二十リットル、といった具合だ。次々に五十や百リットルを超える値が出てくる。それらを見てみると、あまりに多くに水を使っている、これ

らを生産している国々は水が足りるのか疑問に思えてくるほどだった。そして、また読み進めると、「日本は輸入を通じて海外とつながっており、海外での水不足や水質汚濁等の水問題は、日本と無関係ではない」と書かれていた。この文を見て僕は、自分も海外の水に関する問題と無関係ではなかったという事を知り、自分も海外の水不足などの原因の一つだったという事に気が付いた。また、逆に自分も水不足などの問題の解決や防止に貢献できるという事に気が付いた。水に恵まれた僕のような人がこのような問題の解決や防止に貢献しなければならぬのだ。これまでのように、海外の水不足や水質汚濁などの水問題から目を背けてはいけない。

日本という国は、水に恵まれた豊かな国である。しかし、その豊かさは海外から形を変えて輸入されるバーチャルウォーターという水の上に成り立っている。だが、その輸出国の中には、水不足や水質汚濁といった水問題に悩まされている国もある。つまり、海外での水不足や水質汚濁等の水問題は、日本と無関係ではないのだ。そして、このままいくと、二〇二五年には、三十万人ほどが水不足になってしまうそうだ。水質汚濁も今よりもひどくなっているかもしれない。しかし、それは防げることだ。例えば、日本人全員が一日一リットル節約すれば一年でだいたい三六五億リットルもの水を節約することができる。小さなことでもみんなですれば大きなことになるのだ。限りある、宝物のような水。この「水」を次の世代にも伝えていかなければならない。また、宝物のような「水」を守るため、自分でできることを考え、実行に移していかなければならない。小さなことでも「水」を守ることに繋がるのだ。